

■ 年から続く国の研究。予知は実現に近づいているのか

教授  
測地震学

88年、東大で「地球環境  
の破壊的滑り」の著者。ミ  
ナミナ「地震発生」の復  
元。

は進んでいる  
ニター可能に

状態があることが発見  
。実験室での岩石破壊  
、理論的な研究による  
地震の破壊的滑りの  
「直前」にゆっくりし  
（前駆的滑り）が発生  
りが加速して大地震に  
ことが予想されている。  
整備された観測網で前  
駆的滑りが地震発生の前  
に記録された例はまたな  
が、プレートの結合状  
態にさまざまな種類のあ  
ることを観測されている  
。前駆的滑りが検知  
される可能性は高い。

# 地震予知を考える

島村 英紀

北海道大教授  
(地震学)



東大東洋学博士。近  
く「地震学」の  
音(仮題)。

発生過程のモデルも方程式も存在せず  
東海地震でも失敗で不意打ちあり得る

日本の地震予知計画はず  
に約40年続いている。だが、  
この間一度も実際の予知に成  
功していない事実を関係者は  
重く受け止めるべきだろう。  
阪神淡路大震災が起きて地  
震予知の無力さが明らかにな  
って、地震予知研究は重大な

## 40年、一度も成功せず

阪神淡路大震災が起きる前  
には日本での前兆現象が79  
0件もあったとされたわられてい  
た。前兆はすべてが地震の後  
に発表されたものだが、こん  
なにも多く前兆が捉えられてい  
るのなら地震予知はできるの  
にちがいない、と人々が考え  
たとしても不思議はない。

研究者にとって、地震を予  
知して被害を少なくすることは  
は悲願だった。このため、あ  
らゆる前兆を捉えて、理論は  
後でもない、とにかく地震予  
知を、という研究が続けられ  
てきた。しかし観測を続けて  
いるうちに、地震があっても  
前に記録されたような前兆が  
ない例や、もっともらしい「前  
兆」が記録されたのに、肝心  
の地震が来ない例が、次々に  
現れてきてしまったのだ。

しかし、じつは世界のどの  
国でもプレスリップを観測で  
捉えたことはない。昨年9月  
の十勝沖地震はM8の巨大地  
震だったがプレスリップも  
他のどの前兆をも捉えられな  
かった。

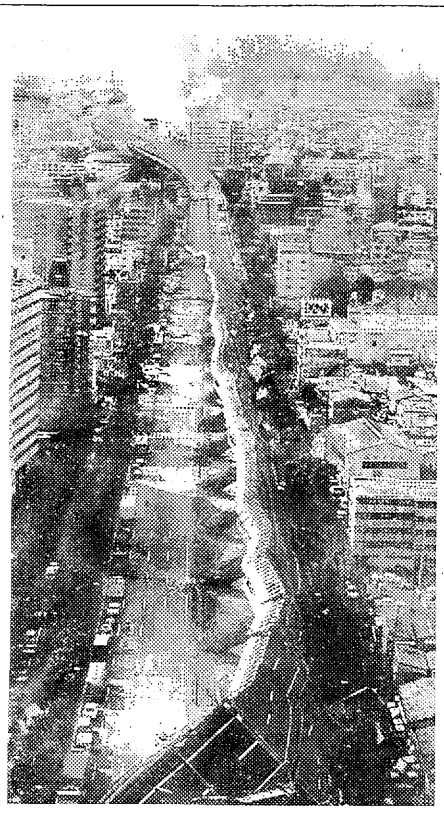
軌道修正を迫られた。しかし  
東海地震は前兆を捉えて直前  
予報が出せる、というのが政  
府の姿勢である。

最近、地震予知の救世主と  
して期待されているプレスリ  
ップ(大地震の数時間、数日  
前に地震断層がゆっくり滑り  
始める現象)も前兆のひとつ  
だ。もし、プレスリップが確

ところが、例えば三重県の  
ホームページには「情報その  
一」情報その二として「警  
戒宣言」という流れ図を掲げ、  
「予知情報の内容は明確化」  
されたとある。ここには、シ  
ナリオ通りに進まない場合が  
あることは、どこにも書いて  
いない。

ところで「大地震の前に起  
きる現象」のすべてを必死に  
何十年も追いつめてきたのだ  
から、プレスリップが明瞭  
に記録されていれば、当然前  
兆として数えられたはずだ。

国民は、地震予知の危うさ  
をもっと正確に知らされるべ  
きであろう。



予知研究にとても大きな曲がり角になった阪神大震災  
1995年1月17日、神戸市で

■ 編集部から ■  
かつてはバラ色の夢  
も語られながら、なか  
なか実現しない地震予  
知。多数の死者を出し  
たイランの大地震は予  
知の重要性を痛感させ  
ます。予知は本当に可  
能なのか、電波など従  
来の方法と違う予知に  
期待はできるのか、論  
じてもらいました。こ  
の欄へのご意見は東京  
本社編集局の「論点」編  
集部へ、郵便、ファクス  
03・3211・4073、Eメ  
ールronten@mbx.m  
ainichi.co.jpで。